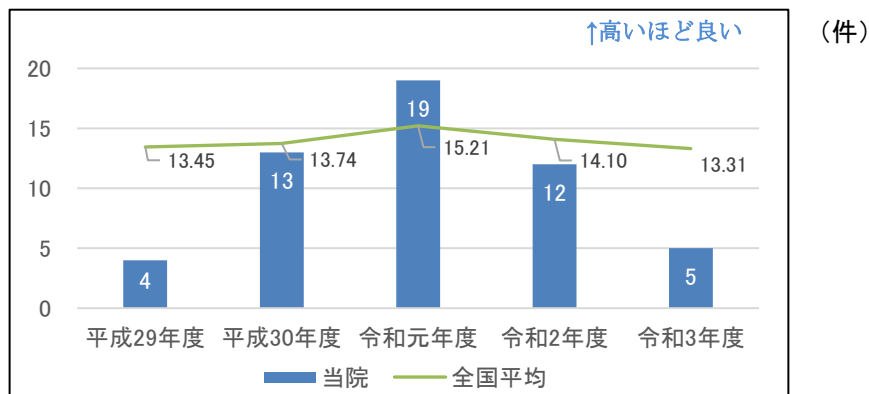


11 新生児のうち、出生時体重が1500g未満の数

○項目の解説

出生時体重が1500g未満の新生児を極小低出生体重児といいます。このような新生児の治療には、高度な設備を持つ新生児特定集中治療室(NICU)において、経験のある医師・看護師が24時間体制で呼吸・循環などの全身管理を行う必要があります。極小低出生体重児の数は、高度な周産期医療を提供していることを示します。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院では、例年、年間10～20名程度の極低出生体重児を受け入れています。令和3年度は5名と大幅に減少していますが、全国的にコロナ禍で出生数自体が減少傾向にあることが原因と分析しています。このことは当地区でNICUをもつ旭川厚生病院も同様であり、旭川地区全体で極低出生体重児の出生数が少なかったと考えられます。当院では、近年多くなっている先天性疾患児や外科手術などの高度な治療を必要とする児を多く受け入れをしています。早産児のみならず、外科治療や体外循環など当院でしか提供できない診療を中心に、今後も同地区の新生児医療に貢献できるよう尽力して参ります。

○定義

DPC データを元に算出した、自院における出生数です。

死産は除きます。

○算式

出生時体重が1,500g未満の産児数